

【技術分類】 3 - 1 - 1 組物 / 組紐 / 丸組

【技術名称】 3 - 1 - 1 - 1 四ツ組

【技術内容】

組紐はその形状から、丸組、平組、角組に分けられる。丸組には四ツ組、八ツ組、江戸組がある。

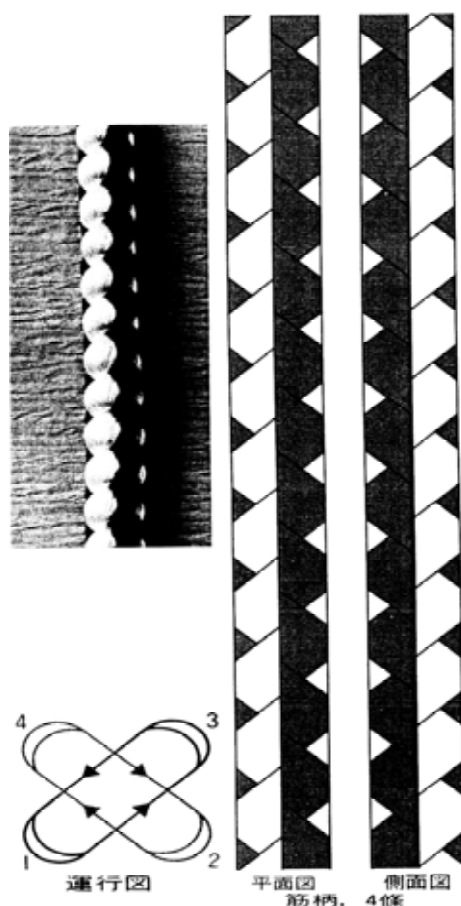
糸を 1 本以上、数十本を一単位として（これを一玉と呼ぶ）それを三玉以上、時には百玉以上を使って、ある一定方式の組み方によって、交互に斜めに交わらせてできる細幅、あるいは丸い繊維製品を組物あるいは組紐という。織紐が直角交叉しているのに対して、組紐は必ず斜面交叉であることが特徴である。

四ツ組の場合、2 群で構成されているので、各群を色分けする事により、筋柄ができる。図 1 に四ツ組で組まれた筋柄の紐を示す。これを、他の群の 1 局ずつを色分けすると螺旋模様となる。このように色分けにより、色々な柄が得られる。

四ツ組の組紐の組み方を図 2 で説明する。四本の組糸を図のように配置し、2 と 4 の紐を時計回りに回転させ、2 を 4 の位置に、4 を 2 の位置に持ってくる。次に 1 と 3 の紐を、今度は半時計回りに回転させ、1 を 3 の位置に、3 を 1 の位置に置く。この動作を繰り返して四ツ組紐が完成する。

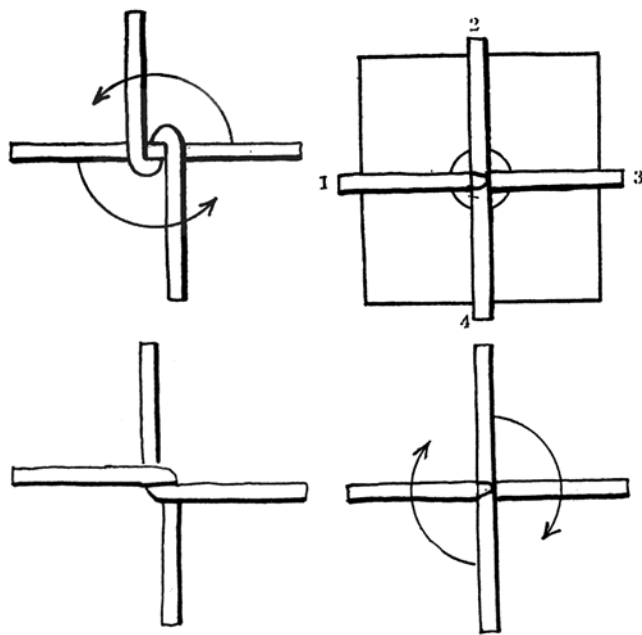
【図】

図 1 筋柄の四ツ組紐



出典：「新技法シリーズ 組紐を設計する」、1981 年 2 月 28 日、藤田昌三郎著、株式会社美術出版社発行、30 頁 筋柄，4 條

図 2 四ツ組の組み方



出典：「京くみひも」、1979 年 3 月、菅沼晃次郎著、民俗文化研究会発行、223 頁

【出典 / 参考資料】

「新技法シリーズ 組紐を設計する」、1981 年 2 月 28 日、藤田昌三郎著、株式会社美術出版社発行
 「京くみひも」、1979 年 3 月、菅沼晃次郎著、民俗文化研究会発行
 「くみひも」、1969 年、菅沼晃次郎、他著、民俗文化研究会発行

【技術分類】 3 - 1 - 1 組物 / 組紐 / 丸組

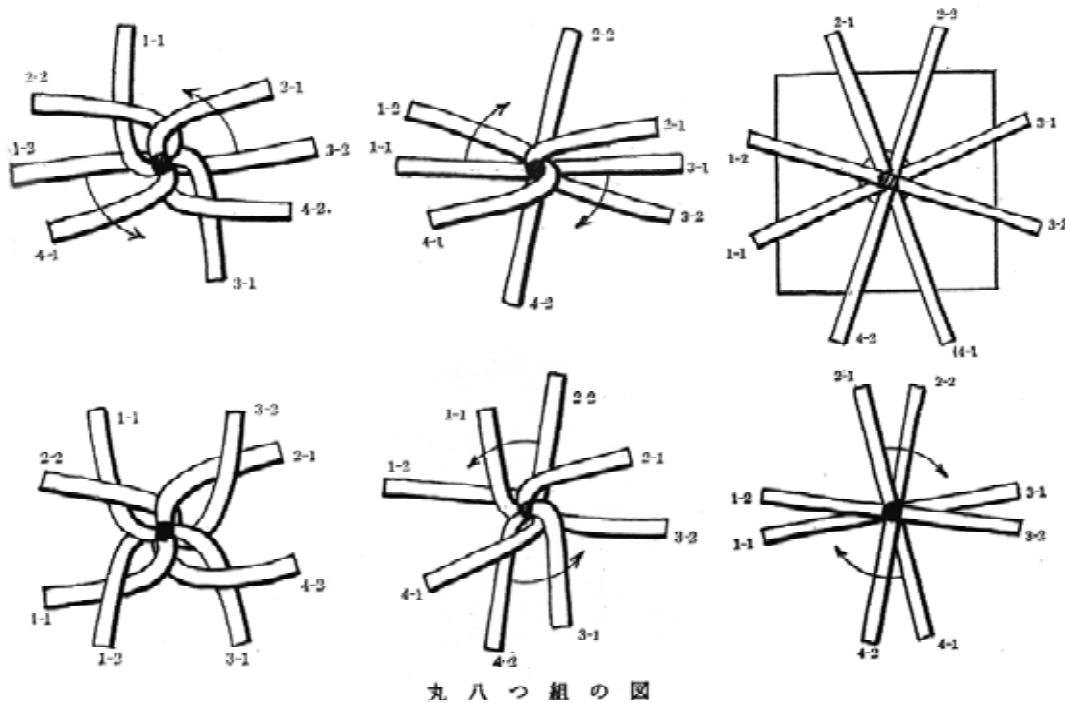
【技術名称】 3 - 1 - 1 - 2 八ツ組

【技術内容】

八ツ組の組紐の組み方を図 1 で説明する。八ツ組は組台の前後左右に 2 本ずつ組み糸が並ぶから、1 の 1、1 の 2 と名づけて説明する。2 の 1 と 4 の 1 を時計回りに 90 度まわす。2 の 1 は 2 の 2 と 3 の 1 の間にくる。4 の 1 は 4 の 2 と 1 の 1 の間にくる。次に 1 の 1 と 3 の 1 を時計回りに 90 度回す。今度は 2 の 2 と 4 の 2 を半時計回りに回す。続けて、1 の 2 と 3 の 2 を同様に半時計回りに 90 度回す。この動作を繰り返して八ツ組紐が完成する。

【図】

図 1 八ツ組紐の組み方



出典：「京くみひも」、1979 年 3 月、菅沼晃次郎著、民俗文化研究会発行、224 頁 丸八つ組の図

【出典 / 参考資料】

「新技法シリーズ 組紐を設計する」、1981 年 2 月 28 日、藤田昌三郎著、株式会社美術出版社発行
「京くみひも」、1979 年 3 月、菅沼晃次郎著、民俗文化研究会発行
「くみひも」、1969 年、菅沼晃次郎、他著、民俗文化研究会発行

【技術分類】 3 - 1 - 1 組物 / 組紐 / 丸組

【技術名称】 3 - 1 - 1 - 3 江戸組

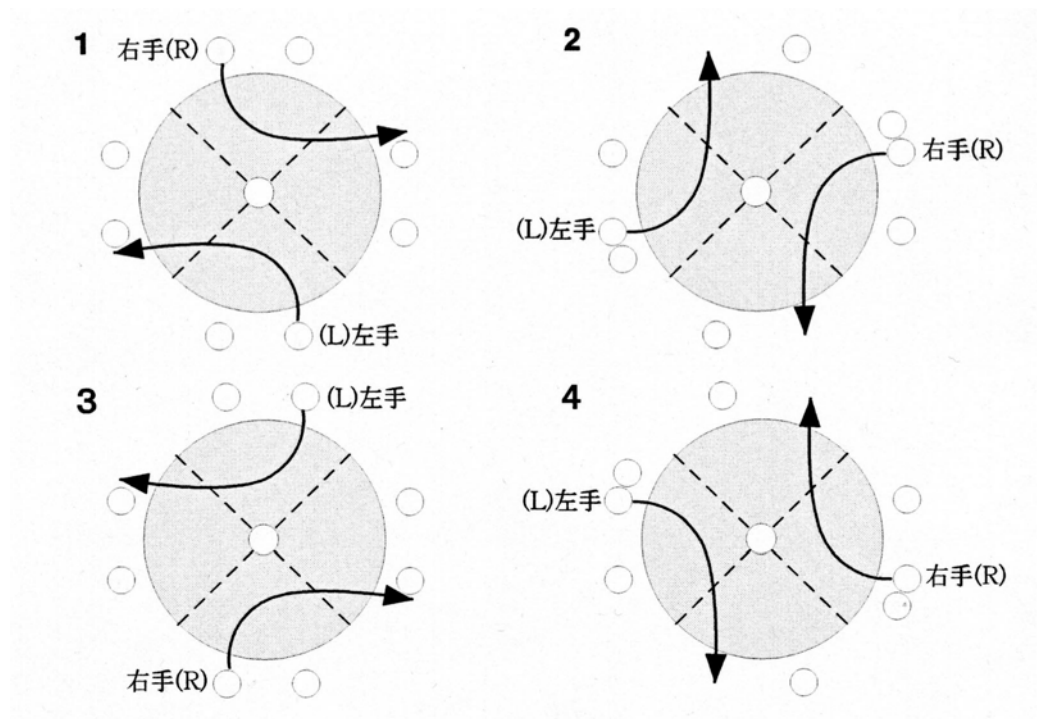
【技術内容】

組紐はその形状から、丸組、平組、角組に分けられる。丸組には四ツ組、八ツ組、江戸組がある。

江戸組の組紐の組み方を図 1 に示す。江戸組は八ツ組の中で一番組み目の細かい組である。綺麗に組むには鏡面を八等分する位置に糸置きをする。

【図】

図 1 江戸組紐の組み方



出典：「丸台の組紐」、1996 年 12 月、多田牧子著、テキスト発行、29 頁

【出典 / 参考資料】

「丸台の組紐」、1996 年 12 月、多田牧子著、テキスト発行

「京くみひも」、1979 年 3 月、菅沼晃次郎著、民俗文化研究会発行